

学力向上を図るための全体計画

東京都教育目標

- 子どもたちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かな人間の育成に向けた教育を重視する。
- 練馬区教育目標
- きめ細かい指導や支援により、夢や目標をもち困難を乗り越える力を備える子供たちの育成を図る。

学校教育目標

- ◎考える子
- ねばり強い子
- 心ゆたかな子

児童の実態

- 真面目で素直な児童が多いが、自己肯定感がやや低い。
- 知識・技能・学ぶ意欲・体力に差がある。
- 自分の思いや考えを、自信をもって伝え、他者とより良い関係性を築くことが必要である。

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

◎主体的に学び、確かな学力の向上を図る教育の推進

- 学年段階に応じて、学習の基礎・基本を身に付けさせる工夫・積み重ねができるようにする。
- 体験活動を重視し、児童に学習の目的や課題を明確にもたせ、その解決を目指した学習ができるようにする。
- 児童が考え判断し表現することを十分に経験させるとともに、指導者や児童相互で認め合う場を位置付け、協力して問題解決に取り組む。
- ICT（大型提示装置・実物投影機・学習者用端末等）の活用を図る等、児童にとってより分かりやすい授業を目指す。

各教科の指導の重点

◎児童自らが学び、自らが考える教育の推進を図る。

- 学習のめあてを自らもち、すすんで学習に取り組む態度の育成
- 基礎・基本の定着
- 思考力・表現力・判断力の育成
- 児童相互にかかわり合いながら、めあてが達成できるような支援

本校における「確かな学力」

知識・技能、学ぶ意欲、学び方、課題発見力、問題解決力、思考力、表現力、判断力

今年度の重点

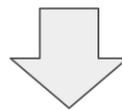
学力と主体的に学び合う意欲の向上を目指した授業改善

□ 学ぶ意欲

自己肯定感を高め、よりよい関係性を築く力・自ら学び合い高め合う力を育むことで、児童自らが主体的に学習に取り組んでいけるようにする。

□ 問題解決力・学び方

児童一人一人がめあて達成のために必要な情報を、学習資料として与えられ、児童相互に確認や助言をし合いながら、タブレット等を効果的に活用し、主体的に学習できるようにする。



めあて達成に向けて主体的に活動していく過程で思考力・表現力・判断力を高める

道徳教育の指導の重点

- 集団の一員としての自覚をもち、思いやりや優しさなど人間性豊かな心をもつことができる。
- 自他の生命を尊重し、健康で明るく活力ある生活を送ることができる。
- めあてに向かって、主体的に取り組み、最後まで根気よくやり通すことができる。

特別活動の指導の重点

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

特別活動の指導の重点

- ◎深く考え、正しく判断する児童
- 集団の中で自分がどのように行動したらよいか考え、判断できるようにする。
- 相手の気持ちや立場を理解し、互いを認め合い、より良い関係を築きながら、協力して行動できるようにする。
- 自分の生活を振り返り、より良くしていこうとする態度を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育過程編成上の工夫 小中一貫教育の視点	校内における 研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
<p>研究主題 「自ら課題を見付け、解決しようとする児童の育成」(仮)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 導入の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が単元の内容を自分事として「やりたい」「考えたい」と思えるような魅力的な導入 ・考える「必然性」を生む。 ・考える「必要感」を生む。 □ 単元後半まで意欲を持続させるための工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・学習に粘り強く取り組めるようにするための工夫 ・感染予防対策を講じた教育活動の工夫 ・自分と結び付けられるような工夫 ・タブレットを活用した学習形態の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> □ 教員の授業力向上を図るために、月1回の校内研究日を基本とする。また、小中一貫研修会など活用し、9年間を見据え、教育活動を工夫する。 □ 授業中の個別指導に加えて、放課後など授業時間外にも個別指導を行えるよう時間を設定する。 □ 教科担任制を取り入れることで、専門性の高い教科指導の実現を図る。 □ 読書週間の設定 □ 体育朝会・体育的活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> □ 全教員が学習指導要領に基づいて、授業を行い、学年を基盤にした授業改善の日常化、研究研修の日常化に取り組む。 □ 小中一貫教育実践校の研究を生かし授業に取り入れる。 □ 日常の授業観察では、指導案を作成して校内で公開し合い、教員が互いに学び合って授業改善に生かす。 □ 放課後など日常的に教員同士で学び合う場を設け、指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> □ ねらいに則して評価計画を作成し、個に応じた評価を行う。 □ 指導者が適切な支援を行うとともに、児童相互にかかわりをもたせ、自分の取組を振り返らせる。 □ ノートや学習プリント等を基に、指導者がその時間の活動を評価するとともに、次時へ向けての支援計画を立てる。 □ タブレットを活用した評価の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> □ ホームページや学校だよりで日常の授業や研究授業の様子を伝えたり、学習で使用したワークシートに保護者の記入欄を設けたりして、家庭、地域への啓発をしていく。 □ 地域コーディネーターを通じて地域の人材を活用できるようにする。 □ ○学校関係者評価を授業改善に生かす。